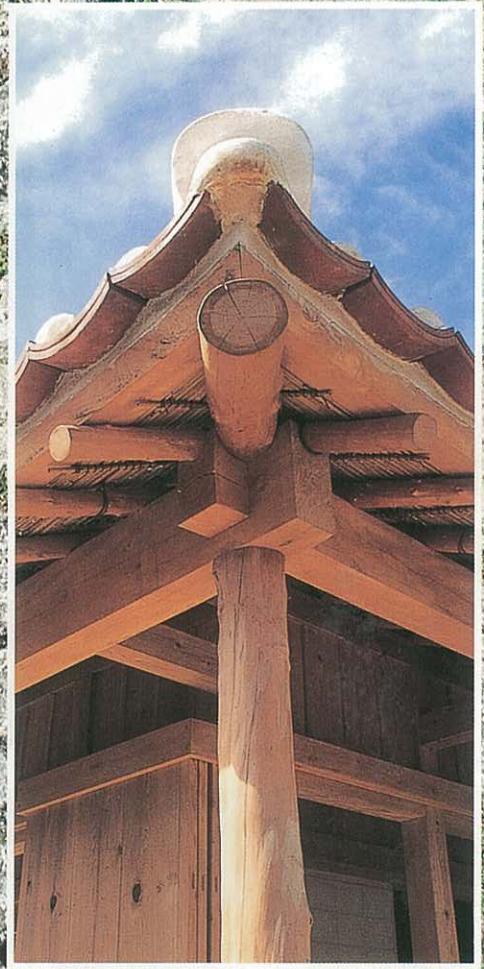


首里 金城村屋



見学時間：午前9時～午後6時(年中無休)
見学料金：無料(ただし、貸切は有料)

那覇市 都市計画部 都市デザイン室
〒900-8585 那覇市泉崎1-1-1
TEL 098-951-3246

平成八年四月作成

過ぎ去つた歴史のなかで、琉球王朝時代から戦前までの那覇が個性豊かな独特の風光を有していたと、先人やさまざまな来訪者に語り継がれてきました。しかしながら、去る大戦の壊滅的な戦禍によつて、これらの重要な歴史遺産はことごとく消失してしまいました。そのなかにあつて、首里城の眼下に広がる首里金城村は、幸いにして古のまち並みを今に留め、首里城の歴史文化を色濃く残す貴重な地域であるため、那覇市としても地域の歴史文化を活かしたまちづくりを進めてきました。首里金城村屋が、歴史文化をテーマとした首里金城町のまちづくりの寄与することにも、地域の方々や観光客に愛され親しまれる施設となるよう期して止みません。

那覇市長 翁長雄志

那覇市



住民参加による瓦記名式



南側全景



南端(あまはじ)



内部
一番座から二番座を見る



広場
原風景に再現された広場と差石(力試し石)



シーサー(屋根獅子)
工事の際に瓦のかけらとムチ(漆喰)で製作したもの



屋根の換気口



門札の文字は那覇市長(親泊康晴)直筆による

古のまち並みを今に留める首里金城町

地域のまちづくりのシンボルとなる

伝統的琉球木造建築「首里金城村屋」

【趣旨】

首里城の眼下に広がる首里金城町は、古のまち並みを今に留め、那覇の歴史・文化を色濃く残す地域であるため、那覇市は、那覇市都市景観条例に基づき、1994年4月1日に「都市景観形成地域」として指定しております。

「首里金城村屋」は、首里城の復元に伴い増加している観光客等へのサービス機能（休憩所・便所・電話等）と地域の歴史的景観形成の先導的役割を果たすため、伝統的な琉球木造建築として整備したものです。また、この場所は、沖縄県指定文化財である「首里金城町石畳道」と那覇市指定文化財である「金城大樋川」に狭まれ、さらに、首里金城町の中心部に位置していることから、地域のまちづくりの核となる施設として位置づけています。

【歴史的環境への配慮】

- 「首里金城村屋」の敷地は、金城大樋川に隣接していることから、かつて、「樋川毛」と呼ばれていた広場であったので、その頃の歴史的景観を醸し出すために、屋敷囲いを生垣としました。
- 敷地の形態が往時のものから大きく変えられていたので、首里古地図や昭和10年代の写真及び文化財発掘調査を基に、金城大樋川との取り合いや石垣の位置などを変更して原風景の再現を図りました。
- 石垣の位置を変更して甍えつた南側広場は、かつて、夕市（コウサンティマチグラー）などが開かれていた場所ですが、そこにはガジュマルの木陰に差石（カ試し石）などを置いて、歴史・文化の追体験が出来るようにしております。

【自然環境への配慮】

水の有効利用を図るうえから、施設の汚水と雑排水を浄化して、便所や散水などに再利用しており、さらに、余剰水は地下に還元しております。



首里金城風景



首里金城の石畳道 繁多川、識名を望む

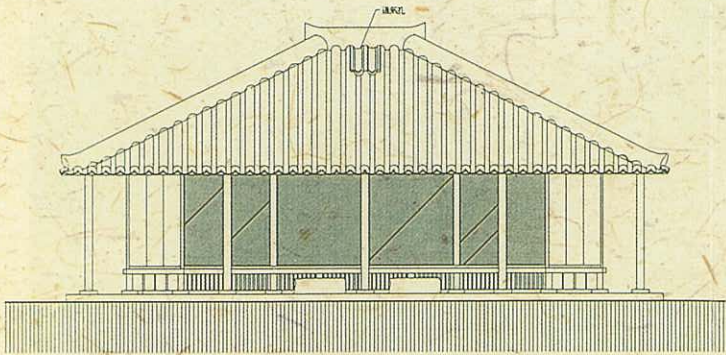


首里の石畳道

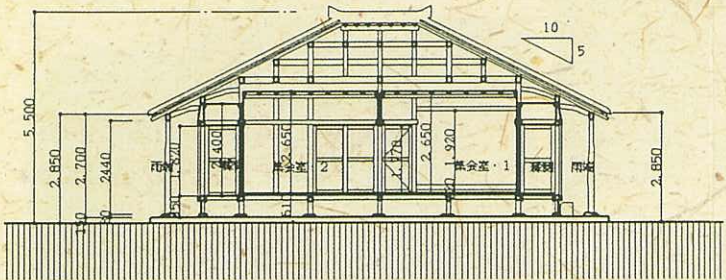


首里金城大樋川付近

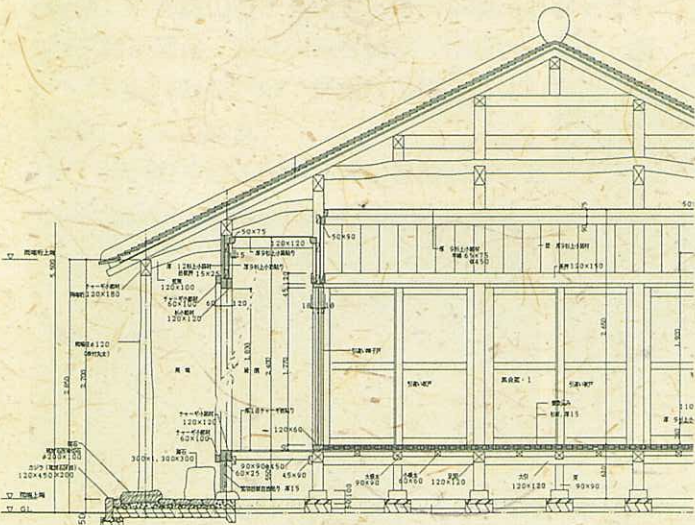
写真：坂本万七遺作写真集
(沖縄・昭和10年代)より



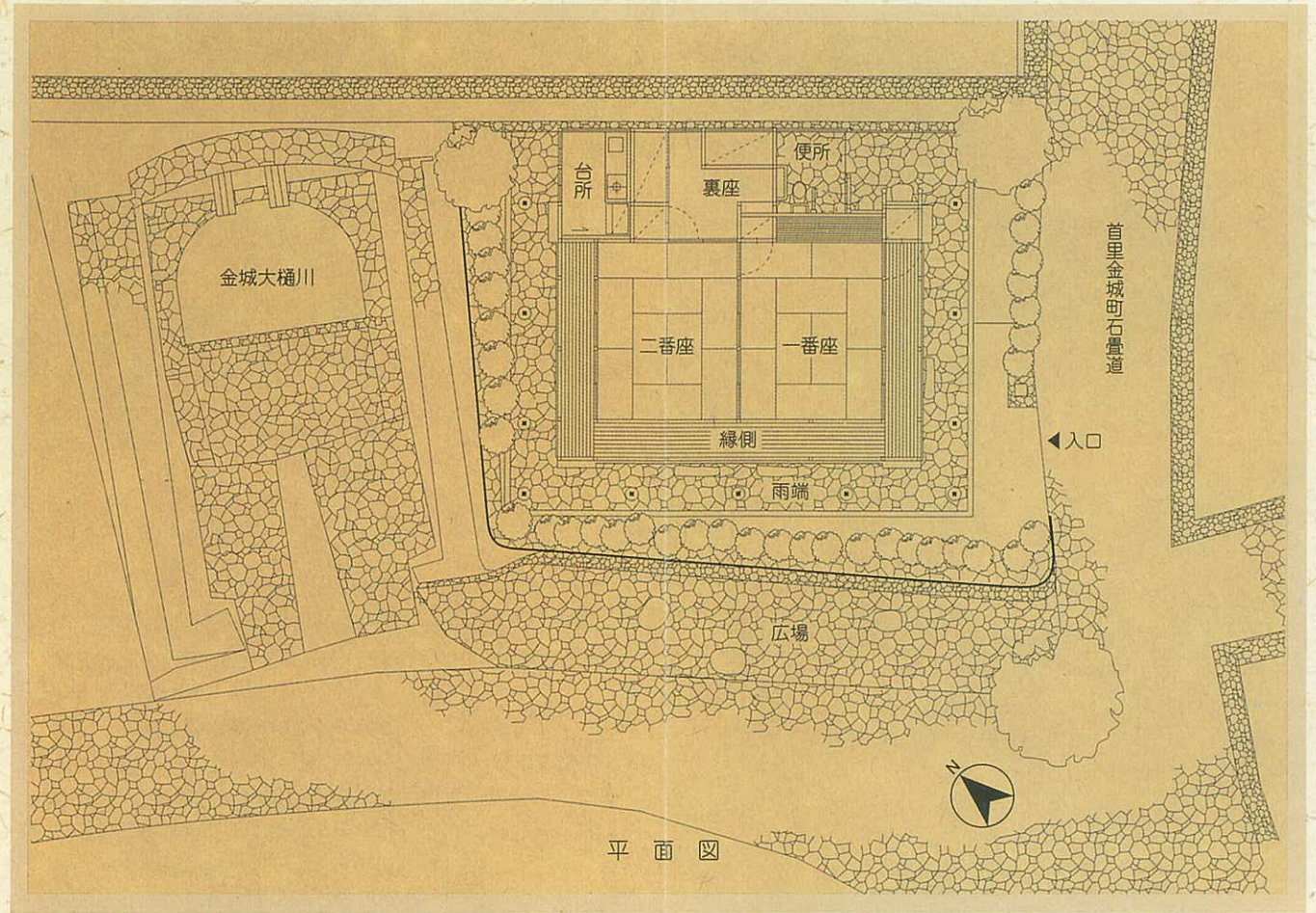
南立面図



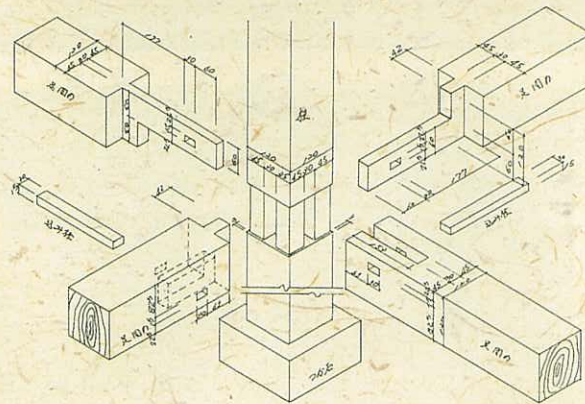
断面図



矩計図



平面図



足固め四方差し

◎建築概要

「首里金城村屋」は、沖縄の伝統的な住居建築を基にした木造平屋建です。平面形式は、東側から一番座、二番座、その裏側に裏座があり、縁側の周囲には、軒先に独立柱を建て軒を深くした雨端が廻っています。建築材は、榎と杉(日南市鉄肥杉)を使用しており、軸組は伝統的貫木屋構造で、継手・仕口などには一切クギを使っておりません。また、屋根も、寄棟造りの本瓦(赤瓦)葺で、魔除けのシーサー(屋根獅子)をのせて、換気口を設けるなど沖縄の気候風土に適した独特のつくり方となっています。

敷地面積 201㎡ 延床面積 73㎡ 外部仕上 壁：厚12mm杉板張り
 構造・階数 木造平屋建本瓦(赤瓦)葺 内部仕上 床：厚18mm横板張り、畳表(琉球備後)
 壁：厚9mm杉板張り
 天井：厚9mm杉板張り